

朝日遺跡 だより

2021年10月
vol.2

振り返りレポート／特別企画展「弥生人といきもの2021 貝を知ろう!」
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話

アカとクロがレポートするミュージアムの見所
弥生ムラづくりプロジェクトレポート
イベント開催のごあんない「あいち朝日ミュージアム1周年記念感謝祭」
ミュージアムからの美味しいお知らせ
お得な共通チケットのごあんない

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム



観覧料

常設展も
観覧できます

区分	一般	大学生・高校生
個人	300円	200円
団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

- 愛知県清須市朝日貝塚1番地
- TEL/052-409-1467
- 開館時間/9:30~17:00
- 駐車場/15台
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムより
清洲城まで徒歩約10分



入館料

【大人】	300円
【小人】	150円
（小中学生） ※幼児無料	

- 愛知県清須市朝日城屋敷1-1
- TEL/052-409-7330
- 開館時間/9:00~16:30
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



展示室 入館料

【一般】	200円
※中学生以下無料	

- 名古屋守山区大字上志段味字前山1367
- TEL/052-739-0520
- 開館時間/9:00~17:00
- 休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

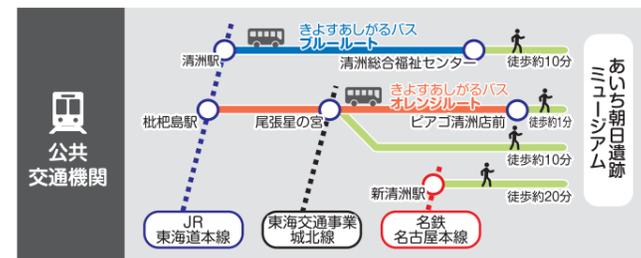
あいち朝日遺跡ミュージアム
清洲城 共通チケット
2施設で計600円を **500円** 発券より半年間有効

あいち朝日遺跡ミュージアム
体感!しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を **400円** 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

あいち朝日遺跡ミュージアム



名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。



新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館時のマスク着用および、検温と手指消毒、入館者把握のためのシート記入をお願いします。また状況に応じて、館内の一部閉鎖および関連イベントを中止する場合があります。詳しくは公式WEBページにてご確認ください。



企画展 振り返りレポート



特別企画展

弥生人といきもの2021 貝を知ろう!

■ 期間 / 2021年7月22日～9月20日

■ 場所 / あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

展示は、朝日遺跡出土の貝と現代の貝を並べて、貝塚や弥生時代の朝日遺跡の環境について紹介する第1部と、貝製の装飾品やそこから発展した青銅器について紹介する第2部の2部構成としました。日本では縄文時代から、貝は食用としてだけでなく、装飾品の材料としても利用されてきた歴史があります。特に弥生時代の九州北部では、沖縄などの南の海でしか採れない貝を交易で入手し、腕輪（貝輪とよびます）に加工していました。このような貝輪は、美しく、しかも多大な労力をかけてつくられた貴重品であるため、権力の象徴であり、呪術的な力を持つともされるものでした。



第1貝塚

本展は会期が夏休み期間ということもあり、当館では初めて子供向けを意図して開催しました。これからも毎年夏に、テーマの生きものを毎回変えながら、弥生人と様々な生きものとの関係を示して紹介していきます。

初回となる本展で「貝」を取り上げたそもそものきっかけは、いつもミュージアムで見かける光景です。ミュージアムの屋外の大部分は国指定史跡貝殻山貝塚となっています。もともと、地元の子供たちは広い原っぱのある公園として、放課後に遊びに来ています。特に人気なのが小山のようにそびえている第1貝塚で、ふと外に目をやると、遊んでいる子供たちがみんな第1貝塚に登って満員になっている、ということもあります。

そんな子供たちに「今いるところの足元が大切な遺跡そのもの」だと気づいてほしい。そんな思いから選んだテーマが貝塚を形づくる「貝」でした。そして、全12問のクイズを載せた探検ブックを作成し、来館者に配布しました。これらのクイズは展示の中に正解やヒントがあり、順番に解いていくことで、屋外の貝塚や史跡貝殻山貝塚交流館もめぐるようになっていました。



告知チラシ (A4)

第1貝塚を背景に「貝→貝輪→青銅器」と変化する流れを表した



探検ブック (B5-16P)

子どもでも楽しめるクイズ形式のパンフレット



イモガイ製横型貝輪
吉野ヶ里遺跡出土 (佐賀県文化課文化財保護室蔵)

ゴホウラ製立岩型貝輪
三津永田遺跡出土 (個人蔵)

有鉤銅釧
三王山遺跡出土 (名古屋市教育委員会蔵)



巴形銅器
朝日遺跡出土 (当館蔵)



巴形銅器
桜馬場遺跡出土 (唐津市教育委員会蔵)

しかし材料となる貝は慢性的に不足していたらしく、やがて貝輪をモデルとする青銅器がつくられるようになります。こうして素材による制限が少しゆるくなったこともあり、九州北部発祥の南洋産の貝に対する呪術的な信仰はさらに東へと展開していき、朝日遺跡をはじめ愛知県の弥生文化にも及びました。そこで本展第2部では、イモガイ、ゴホウラ、オオツツノハ、スイズガイという4種類の南洋産の貝ごとにコーナーを分け、それぞれで九州北部の遺跡から出土した資料と、愛知県内で出土した資料とが並ぶように陳列し、影響の流れを表しました。

普段は基本展示室2に常設展示している朝日遺跡出土の巴形銅器も、会期中は佐賀県の桜馬場遺跡出土の巴形銅器と並べて展示しました。巴形銅器は魔よけの装飾品と考えられている青銅器で、スイズガイがモデルとされて

います。桜馬場遺跡は魏志倭人伝に登場する末廬国の王墓とされる遺跡で、朝日遺跡から600km以上も離れていますが、この2ヶ所で出土した巴形銅器はサイズや基本の形がよく似ており、同じ文化が伝わっていることに驚かされます。また、3点しか出土例がない巴形銅器の鋳型のうち、2点を本展で展示することができました。

こうして、まずは足元に遺跡があることを子供たちにも知ってほしい、という素朴な思いから出発し、多くの貴重な資料をお借りし、弥生時代の広域交流や信仰にも関わる内容までも含む展示となりました。子供たちには、まだそこまで深い内容までは伝わらないかもしれませんが、しかし、今回親の助けを借りながらクイズに挑戦してくれた子が、少しでも弥生時代に興味を持ち、今後来館してくれるようになれば、うれしい限りです。 (田中恵美)

このコーナーでは、あいち朝日遺跡ミュージアムの収蔵品から、選りすぐりの資料を紹介していきます。

円窓付土器 MARUMADOTSUKIDOKI



円窓付土器

弥生時代中期後葉（紀元前2～前1世紀頃）にみられる変わった形の土器。体部上位にぽっかりと開いた大きな楕円形の孔が目立ちます。この土器は尾張地域を中心に分布していますが、その大半は朝日遺跡から出土したものです。まさに朝日遺跡の特産品といえる土器です。

円窓付土器は、墓域とその周辺から出土することが多いとされています。円窓付土器を研究した永井宏幸さんによると、焼成後に体部に小さな孔を穿つ、口縁部を打ち欠くといった墓に供えられる土器と同じような特徴がみられること、屋外に放置され、風雨にさらされていた状況を示す「風化痕」が見られることなど、墓に供えられた土器と共通する点が多いとのこと。

どうやらこの土器は、居住域など日常的な空間で用いられたのではなく、墓域や集落と墓の境界といった生活空間から離れた場所で使われた儀礼的な性格をもつ土器だったようです。朝日遺跡で行われた独自の祭式に関わる遺物なのでしょうか。

それにしても、この大きな円窓は、何のために開けたのでしょうか。残念ながら、その具体的な使い方はよくわかっていません。ある展示会で、円窓付土器がどのように使われていたか、見学者に考えてもらったところ、「火を灯したランプ」「調理に使ったコンロ」「なかで鳥や動物を飼っていた」などさまざまな新説が登場しました。なかには「壺の下の方に水を入れ、円窓をおして水面を見ること



円窓付土器の出土位置（永井宏幸提供）

で、亡くなった人と話ができたのでは」というユニークな説も。円窓をとおして弥生人と話ができれば、いろいろな謎が解明されるのに、と考えてしまいますね。（原田 幹）



弥生犬「アカ」

縄文犬「クロ」

アカとクロがレポートする ミュージアムの見所 (屋外編)

学芸員に
聞こう!

Q1 はるか昔に作られた竪穴式住居を、 どうやって再現したの？

地面を掘り下げてつくられた半地下式の住居を竪穴住居といいます。発掘調査では、この竪穴と床面に掘られた柱穴や炉跡などがみつかります。屋根にはカヤなどの植物が葺かれていたと推定されていますが、住居の上の方は残っておらず、住居の構造は推定によるところが多くなります。

ミュージアム前の竪穴住居は、朝日遺跡の発掘調査でみつかった円形の竪穴住居をモデルに復元しました。床の中央に大きな穴がありその両端に小さな穴が掘られています。これは松菊里型住居といって、朝鮮半島南部に系譜をもつ住居型式です。

復元にあたって、柱などの木材はコナラなど照葉樹の雑木を、屋根はススキからつくったカヤを用いています。現代の技術を使っても建築には数ヶ月かかりました。材料の調達や加工まで考えると、弥生時代はかなりの時間がかかったでしょうね。ミュージアム展示室の模型には、竪穴住居を建てているシーンもあるので、よく見て下さいね。



発掘された竪穴住居(愛知県埋蔵文化財センター提供)



竪穴住居をつくる(基本展示室模型の写真)

Q2 あいち朝日遺跡ミュージアムには、2つの竪穴式住居があるけれど、違いはあるの？

朝日遺跡では、平面のカタチが円形の竪穴住居と四角の竪穴住居があります。ミュージアムの敷地には、もともと長方形の竪穴住居が復元されていました。ただし、この住居は昭和20年代に岩倉市大地遺跡で発掘された6本柱の竪穴住居をモデルとしています。もう一つは先ほど紹介した円形の竪穴住居で、朝日遺跡で見つかったものを新たに復元しました。

Q3 竪穴式住居を復元する上で苦労したことはありますか？

復元住居の柱材や屋根を葺くカヤなどの材料を調達することです。柱には、コナラを使っていますが、現代では一般的な建築材ではなく、形も自然な物となると、一般には流通しておらず入手することが難しいのです。実際に使用した柱材は、建築にあたった業者や大工さんと島根県の実地まで行って、林の中から選んできました。また、屋根のカヤは長野県の茅葺き職人来てもらい作業しました。



木材の選木(島根県出雲市)

Q4 竪穴式住居の注目してほしいポイントはありますか？

残念ながら、ふだんは住居の中に入って見学することはできませんが、ぜひ入口からなかを覗いて、弥生時代の人々の暮らしを想像してみてください。



今回は
朝日遺跡に詳しい
学芸員の方に
話を聞いたよ



原田 幹(あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員)

学芸課の原田です。朝日遺跡との関わりは、もう30年くらいになるでしょうか。展示室で「東西弥生文化の結節点」「ものづくり愛知の原点」「弥生時代の名古屋」といったフレーズの解説をしている職員をみかけたら、おそらくそれは私です。

しかし、調査員として朝日遺跡の発掘調査に携わった機会は数えるぐらいしかありません。その数少ない貴重な体験が、1995年から1996年にかけて、このミュージアムの建設地点で行われた発掘調査です。

この調査では、弥生時代前期から後期、そして古墳時

代まで、環濠、貝塚、方形周溝墓など、各時期の遺構が調査区一面に広がっていました。出土遺物は5500㎡の調査区から3000箱以上の土器、石器が出土しています(通常の発掘調査の10倍ぐらいの量)。何よりたいへんだったのが、滾々と湧き出る地下水で、ポンプの排水が追いつかず、調査中の遺構が水没してしまうこともありました。

朝日遺跡の凄さと調査の苦労を実感した発掘調査でしたが、これを機に、本格的に朝日遺跡と関わっていくことになりました。それはまた別の機会にお話ししましょう。(原田 幹)



水が湧き出る発掘現場(1996年撮影)(愛知県埋蔵文化財センター提供)

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作を通して古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで 弥生体験を実践しています。

自然観察会 8月1日(日)



水が張られた体験水田には、トンボやカエル、アメンボなど、さまざまな生き物が集まっています。その様子をみんなで観察する「自然観察会」を開催しました。

熱田神宮宮繕部林苑課の寺本匡寛を講師に迎え、体験水田で採集した生き物の種類や特徴などを教えてもらうとともに、在来種の現状と外来種による生態系の破壊についても解説していただきました。

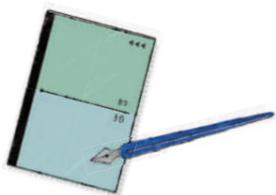
お話の後は、屋外に出て子どもたちと生き物を採取しました。

石包丁づくり 9月19日(日)



秋の稲刈りを控え、収穫の準備として石包丁づくりを開催しました。今回はスレート石を使って入念に刃を研いで石包丁を作ります。当館のボランティアスタッフである「おもてなしムラ人」も参加し、参加者のサポートをしていただきました。

便利な物があふれる現代では、この手間のかかる道具作りが「新鮮な体験」になったようです。子どもたちも自分が作った石包丁に満足そうでした。収穫がたのしみです!



イベント開催のご案内 (2021年10月11日現在の情報です)

あいち朝日ミュージアム 収穫祭

2021年 11月20日(土) 10:00~16:00 開催予定

※雨天の場合は 11月21日(日)

詳しくは公式WEBページをご覧ください



弥生犬「アカ」



縄文犬「クロ」

2020年11月にオープンした「あいち朝日遺跡ミュージアム」は、オープン以来たくさんのお客様にご来館いただき、無事に1周年を迎えることができます。また春からミュージアムで育てていた稲が無事収穫できたお祝いとして、11月20日(土)に、秋の「収穫祭」を開催します。ステージイベントやキッチンカーの出店など、魅力盛りだくさんのイベントです。ぜひ遊びに来てください。

収穫祭 イベント

バックヤードツアー

当館の学芸員が普段は入れないミュージアムの裏側を案内します

弥生緑日

「貝おとし」や「貝すくい」など楽しいイベントに挑戦!

弥生ミニステージ

「ドキドキ!朝日遺跡!ミニライブ」や「弥生こども劇場」を開催

ミュージアムグルメ

おしゃれなキッチンカーがグルメを用意します

写真はイメージです

ミュージアムから古代体験プログラムのお知らせ

※プログラム参加は、当日ミュージアム受付にてお申し出ください

土・日・祝 開催

10月限定メニュー

おうちで焼ける! 土器づくり

作例
■時間/15:00~(60分)
教材費 各回先着 1000円 5人

11月限定メニュー

磨製石器づくり

作例
■時間/15:00~(60分)
教材費 各回先着 500円 5人

12月限定メニュー

鳥形紙飛行機を飛ばそう

作例
■時間/15:00~(60分)
教材費 各回先着 300円 5人

毎月メニュー

カラフル勾玉作り講座

作例
■時間/11:00~14:00(各回30分)
教材費 各回先着 500円 5人

常時開催

火おこし体験

■時間/平日 13:00~ 土日祝10:00~13:00~
教材費 各回先着 300円 5人 荒天時は中止します

ミュージアムショップからの美味しいお知らせ

【朝日遺跡 土器サブレ】

……さく。ほろ。ふわ。一口で食べてしまうには少し大きい、土器サブレ。やわらかな粉に包まれたサブレは、まるで掘り出されたばかりの土器のよう。口にはいった途端、和三盆の甘みが上品に広がります。「米粉」で作ったサブレならではの軽い口当たりが、「もうひとつだけ」を誘います。清須の名店「御菓子処わたなべ」による当ミュージアムのオリジナルサブレ、温かいお茶のお供に、ぜひご自宅でお楽しみください。



本品の原材料には次のアレルギー物質が含まれます「卵・乳・アーモンド」



土器サブレ(10個入り)/550円(税込)